

江戸
神佛

願

懸

重

寶

記

初

編



葛葉山人著
勝川春亭画

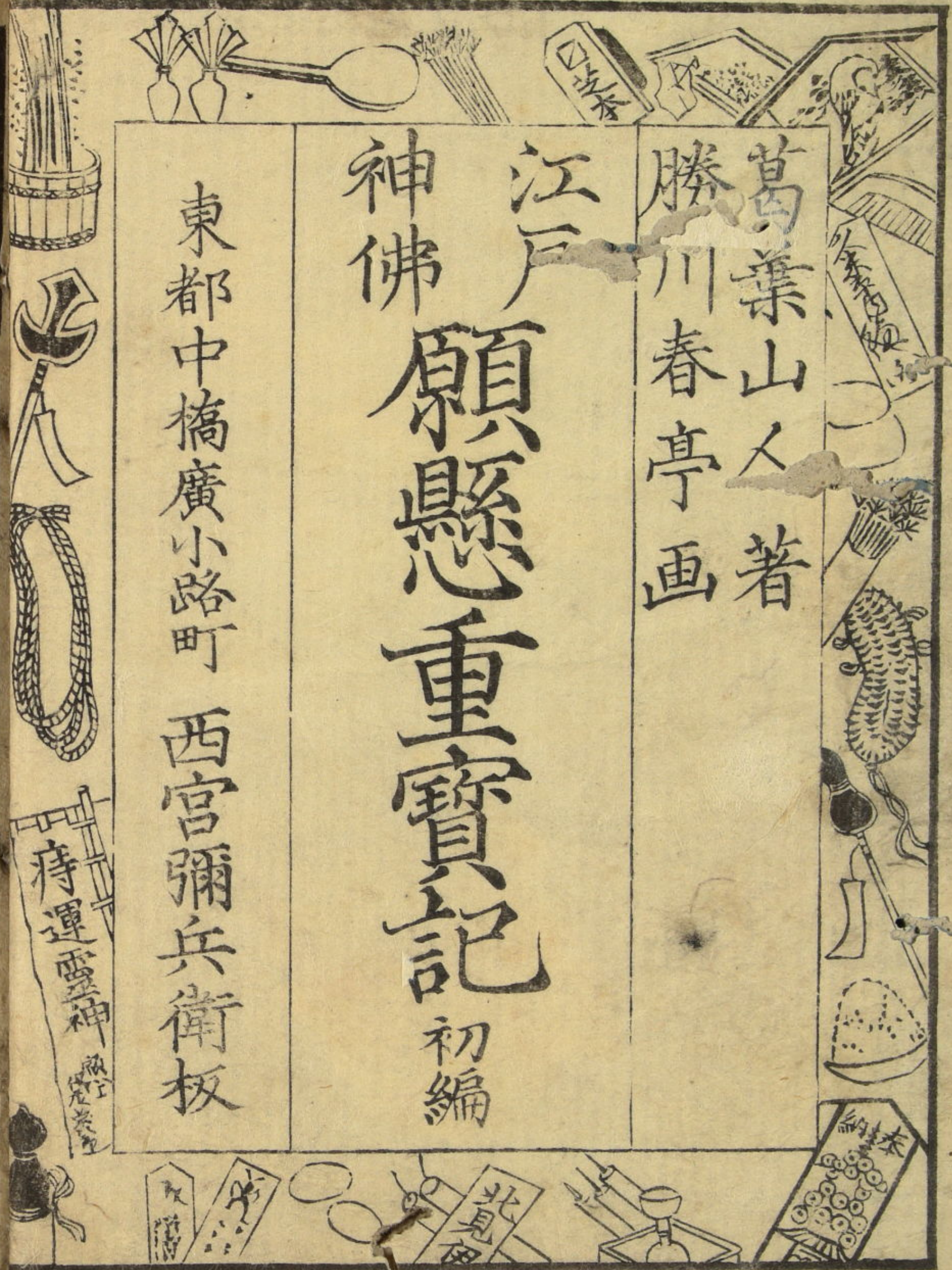
江戸
神佛
願懸重寶記
初編

東都中橋廣小路町 西宮彌兵衛板

願懸重寶記

目錄

- 一 高尾稻荷の社 たけのおいなり
- 一 須宮神 すのみや
- 一 石の婆 いしのばあ
- 一 京橋の欄檻 きょうばしのかざり
- 一 女支 めし
- 一 目黒の滝壺 めぐろのたき
- 一 疫佛 えいぶつ
- 一 孫抄子 まごしり
- 一 頭痛の奴 づうづのやつ
- 一 小児百日咳 こゝろひゃくじつせき
- 一 蚊の奴 かしのやつ
- 一 蚊の金 かしのかね
- 一 錐大明神 きりぎりす
- 一 おさんの方 おさん
- 一 鶏印の守札 けいしん
- 一 日本橋の欄檻 にほんばしのかざり
- 一 北見村伊右衛門 きたみむらゐゑもん
- 一 鎧の涉の河水 よろい
- 一 痔の神 ぢ
- 一 幸崎甚内 さいさきじんない
- 一 蛇の奴 へびのやつ
- 一 虫歯の奴 むしは
- 一 けがせの奴 けがせ
- 一 百日咳の奴 ひゃくじつせき
- 一 蛇よけの札 へびよけ
- 一 痔の奴 ぢ
- 一 痔の金 ぢのかね
- 一 瘰癧の奴 れび



- 一 糸の平内
 - 一 天木戸の鉄
 - 一 浅草寺の仁王
 - 一 繩地蔵
 - 一 熊谷稻荷の札
 - 一 松屋橋の庚申
 - 一 子の聖神
 - 一 御張符
 - 一 日限地藏
 - 一 榎坂の榎
 - 一 三途川の老婆
 - 一 茶の木の稻荷
 - 一 王子の鎗
 - 一 瘧地藏
 - 一 節分の札
- 日よ
 齒のえん
 口中のえん
 眼病の効
 法えん
 いぼのえん
 難老

願懸重寶記

○高尾稻荷の社

萬壽亭正二著

永代橋西詰より高尾稻荷の社あり此祠ふ
 詣り頭痛平愈の願かけ候と云ふ平愈と云ふ
 ことをやうなり願かけと云ふことなり小三櫛と云ふ
 祠のうららるるを借うけ朝夕高尾大明神と祈り
 髪とみで付るなり病氣平愈のり外ふ新ぬ
 櫛と云ふのそえに奉納するなり頭痛ふと云ふに
 して髪の毛薄き人頭瘡のさびひゆるぬの煩

ある人願がけし其驗しきまひき

縁日

○錐大明神

西園橋のまんかろふつうて飛驒の國錐大明神と念トて北の方へむひ錐と三本ツ川の中へ流し疾瘡のころみと平愈さきあひく願うけさるふ日わつたしと忽あともくいゆの神のどし平愈しとのりやまひ錐と三本川一流禮拜をせむむくむが癸さるさるしとのれが年と

ある橋上の番屋よいつらまきぐらふと歎て錐と求め其しとち朔日どんカウと死まきぐ精進しと飛禪國錐大明神とさかへてあんぐなまきぐ

断物 いまひとこ じまめ

縁日 卯白

右三ヶ年の間禁むと

○どんぐり神

本所亀井戸天満宮の境内よ少んぐり神

あり爺父と婆々との木像のしる赤青
 の鬼繩とひんぐぢんとくらんとて居るこれの
 菅公つらく龍遷のよりうら姥の松のたん飯と
 のせく朝夕とてまうりく心ぎい松のたんとらふ
 こころざおころりくしとらう爺の勿体あくもつら
 わりやせしより現在り罰とらうりくとるん
 ぎにわり未世にいつて此爺とどんく神中信
 とも願掛けとらふ願をともぐく成就ととら
 願掛けのしる鬼のひんぐ繩と爺のしるごう

まうひんぐ七日のあのだんんと信ト満願のしるご
 此繩ととくべー

○口中かさんのしるご

西の久保くらくけ町善長寺とらふ寺り口中
 おさんのしるごとてあり諸人ひんぐのあやととら
 口中のやまひといのふくらまり平愈とらなり
 願掛けのしるご本堂にいつり楊枝とらうけ是
 朝夕口中の痛むしとらあて撫ながうねさん乃
 うしとらんぐまらにいつらうしとらまらうらふ

平愈せんといふとあり 平愈しそのあつては
楊枝よりそのおきんのうへ奉るあり

良樹院珊誉大禪定尼 御縁日 八月八日

くわいく其寺のりく 縁記とらぬべし

○石の婆々様

木挽町つぎぢ 稻葉戻の涉やし死ふ年古
石ひて老婆のうへり作てありする 石像あり
諸人うんせきのうまひとのがれんといふ言ひ
とくすすやふ治まる願ひ死ふ人豆といふ

供さるあり 小児百日せ死とて 噎うかやむ人
これと信じて 往古りのりなりとて 諸人
是と石の婆とさふと称と

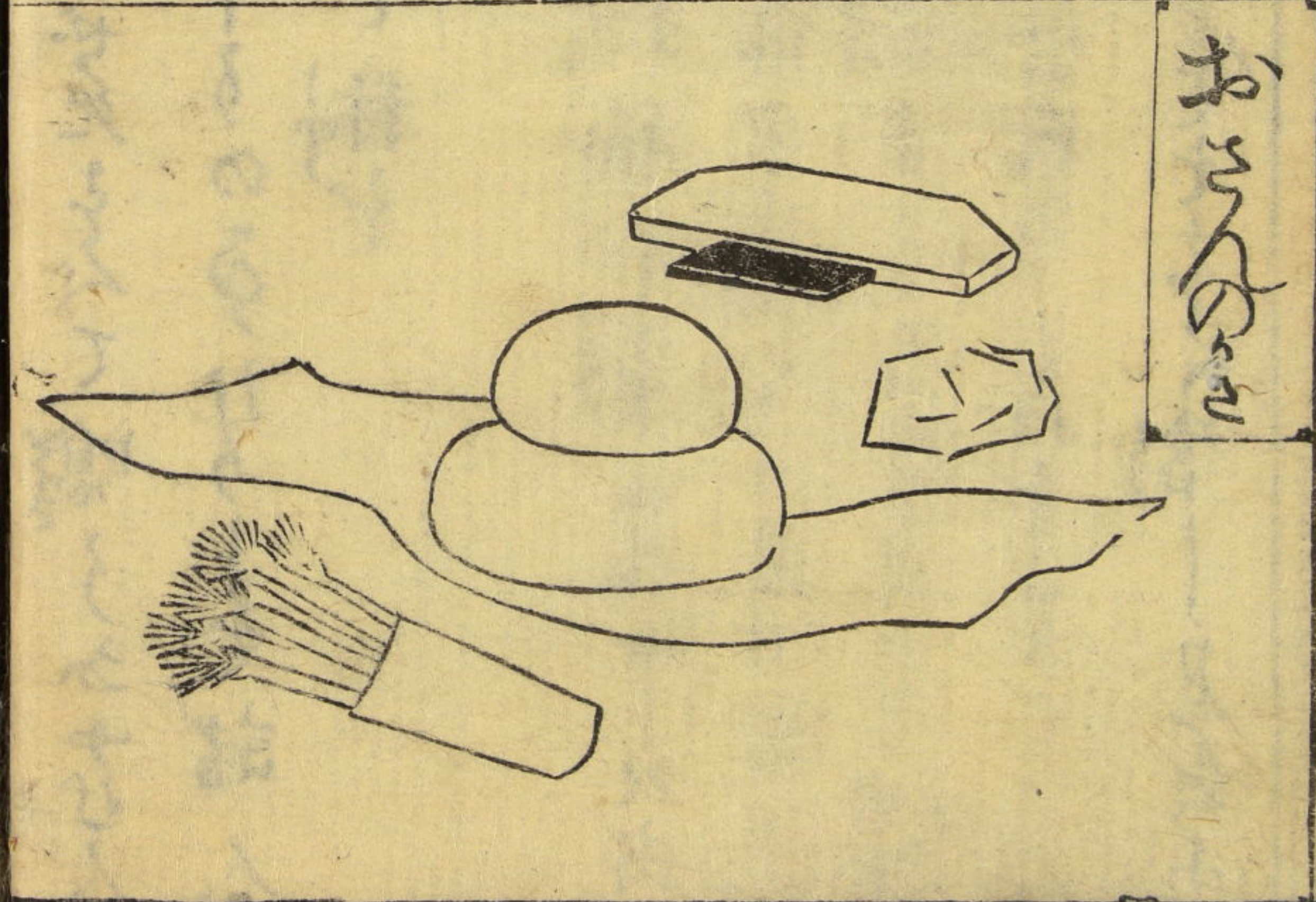
○鶏印の守札

八代洲河岸大石小路 織田戻の涉中死内
熊井戸氏より奇妙のゆり札いづる 是と常小
信るし死のあやまらく高きとらなるなり 轉
おつるし身ふさくも 怪我ありこれをしめし
鶏印ふひぬり札とらるるをえく 落し月を

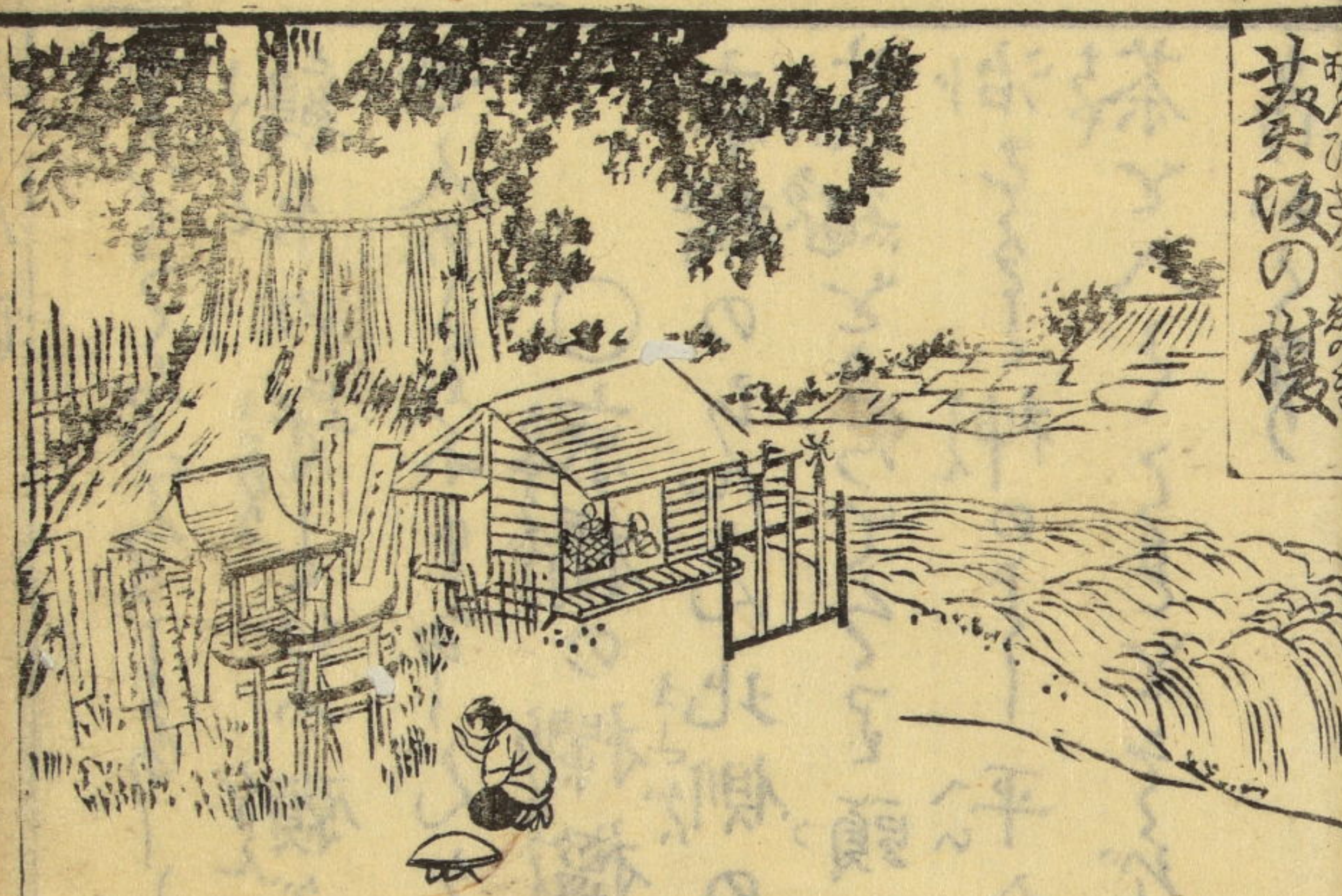
高尾の宮 たけのおみや



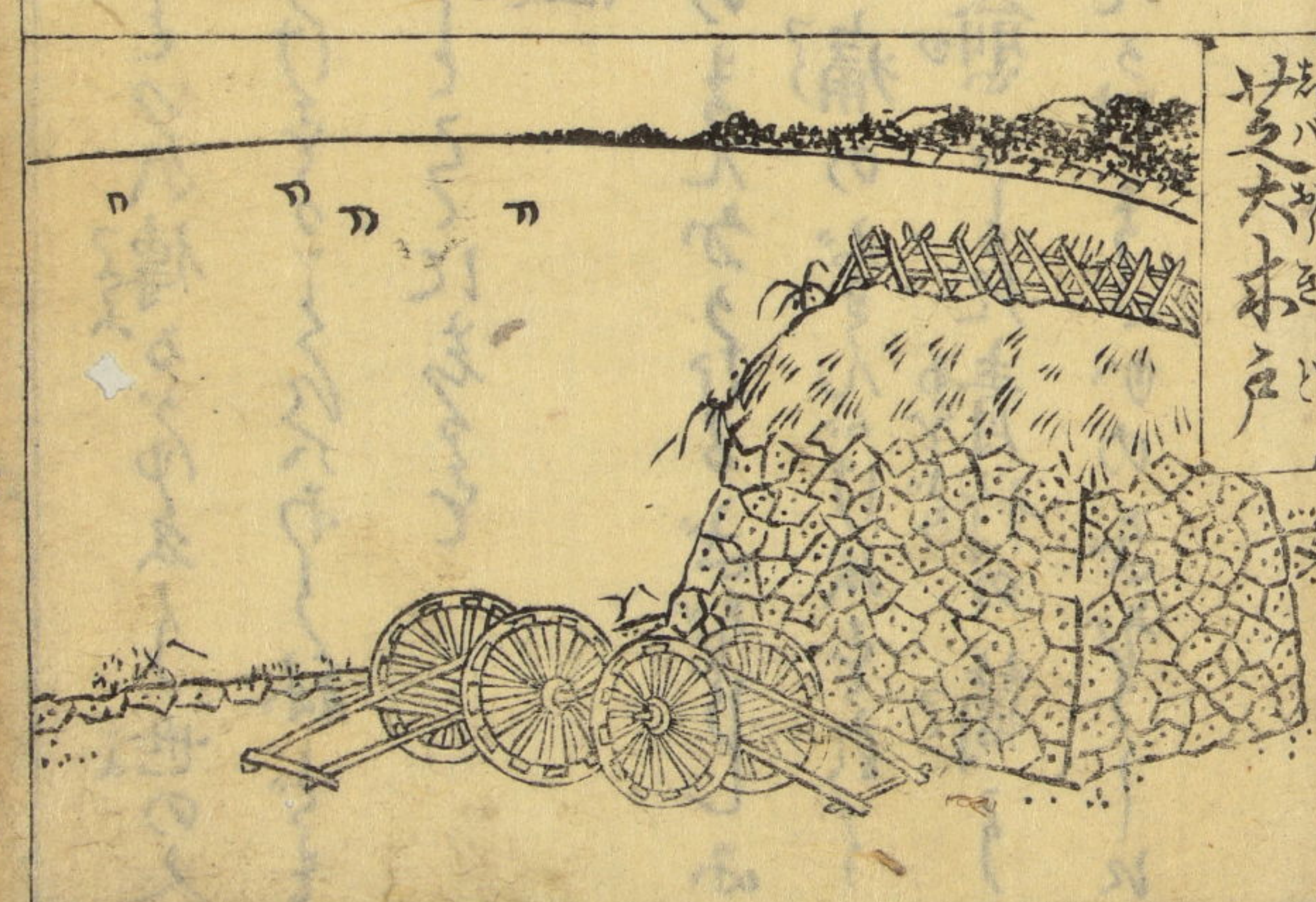
おらんのき



苅田の榎 かりたのえの



おらんのき



まつくろくごころいさましとつゝ傳るがゆゑ入り世の人
鶏卵の守といふ願ひもるこころのわらわら糸もも
世人のこころあまゝんりころくにあま

○京橋の欄檻

京橋のらんえ北側のまんかうなるざざりしみ
荒縄とりつてらと頭痛のぞんがけ風をとれり
治とるし神のくし平愈のし死青竹の筒より
茶と入くこきとそぞろけまこかのぶがうり
りけおくあり

○日本橋の欄檻

京をりのきざりしにかなたととて橋のきざりし
み願ひもるゆ東都のこみあはる洛陽五條乃
たりみつて欄檻みぞんけり煎餅と加茂
川へあがてて歯のいさまぬいの橋大勢乃人氣の
ゆるこころあまがゆゑなるべし四ツ谷のさあがたり
麻布の芽なりなどつづきも頭痛又ハ小兒
百日咳の續がけ

○女夫石

水所石了より番場へ行河岸とりの石工某家
家の男女多し座一なる石の像ありこれ
花とくろト茶とくろとかな世の人夫婦の中
此門まゝとあり又一説ふ男ハ妻ふえん
あ女ハ夫ふえん多れこれと祈りてくまの
縁とれむとくろ石像の因縁来歴等ありと
くもも其かとの里諺めて分明なるゆゑ
つまびらふあるとれこれと番場の女六
石といふあり

○北見村伊右衛門

武多磨郡北見村有藤伊右門といふ
百姓の家ふりて小蛇の除と乞ふあとの
自筆といふく小紙

北見村伊右衛門

かくのどくをてあふこれとくろの遠くが
所へ張おくに其処へ蛇まひしゆのゆが
し四月八日此札とくろくろくろくろくろ
の遠くかといふ此札のどくといふく書写して

所々へ張はりおくれにがしきふもへ此所へ出ると
なし是も願ねがげぬへわし縁ゆかりど女兒むすめのよそ
のまれば爰こゝふのせとこれとありし

○目黒の滝壺

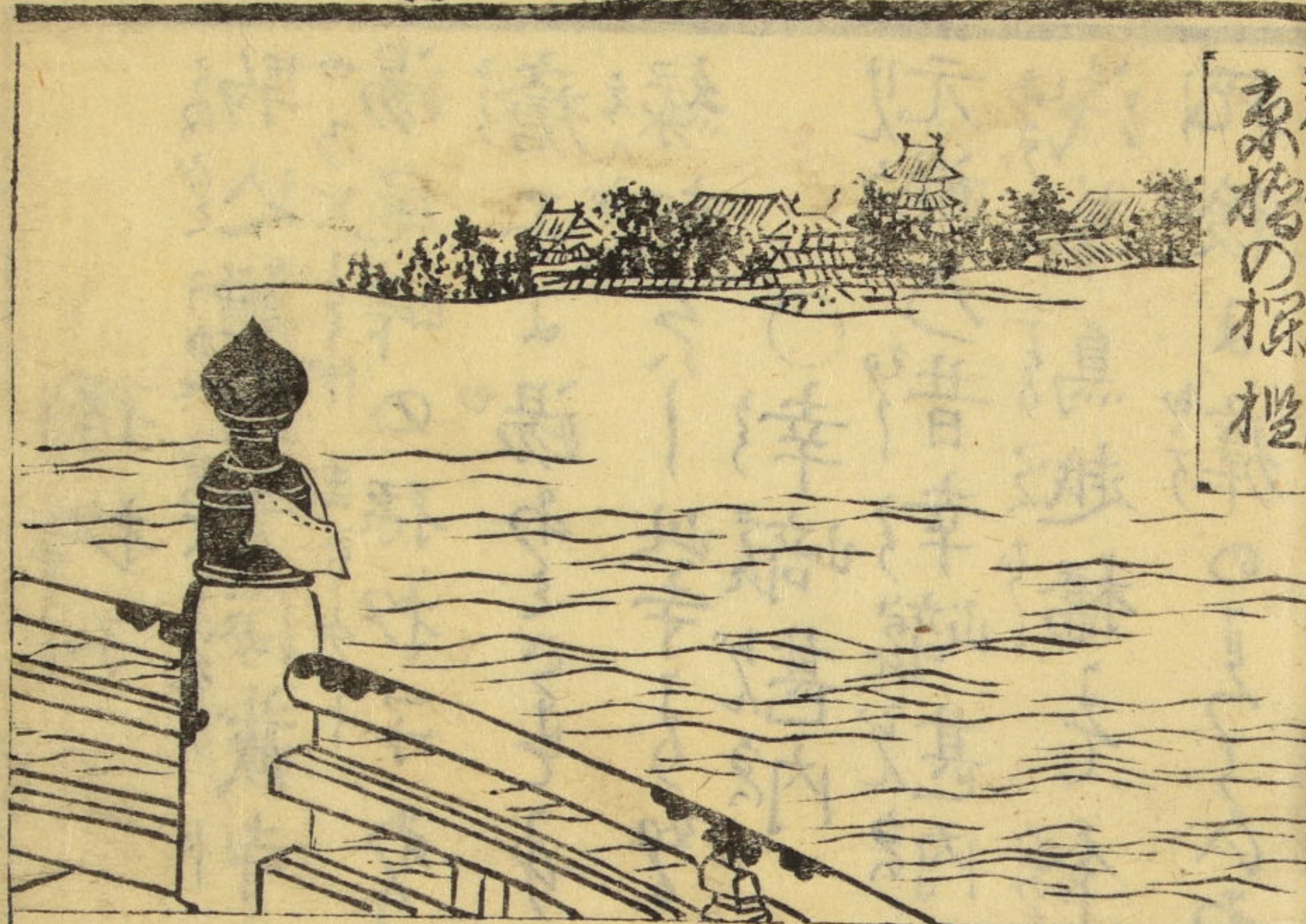
小児月代こゝろつきよと刺さ支しと甚こゝろしくまゝに其そのと死しし
りて泣な泣なさけびこれむらおれり刺さんと母ははり
之この川がと虫むしとおとらう病やまひのおこりしとありし
まわりの目黒不動めくろふどうの滝たきは行ゆ此水このみづとありし
湯ゆふりしわきまぬりし月代つきよとありし

おとらくしとありしとありし古老ころうの話はなし不動ふどう
の文字あざなへ不動ふどうと心こゝろ字あざな義ぎより出いり誘いざなひ
これと信まこととて実まこととせむ其そのとありしとありし
わしとと俗説ぞくせつとありしとありしとありし
ふありしとありし

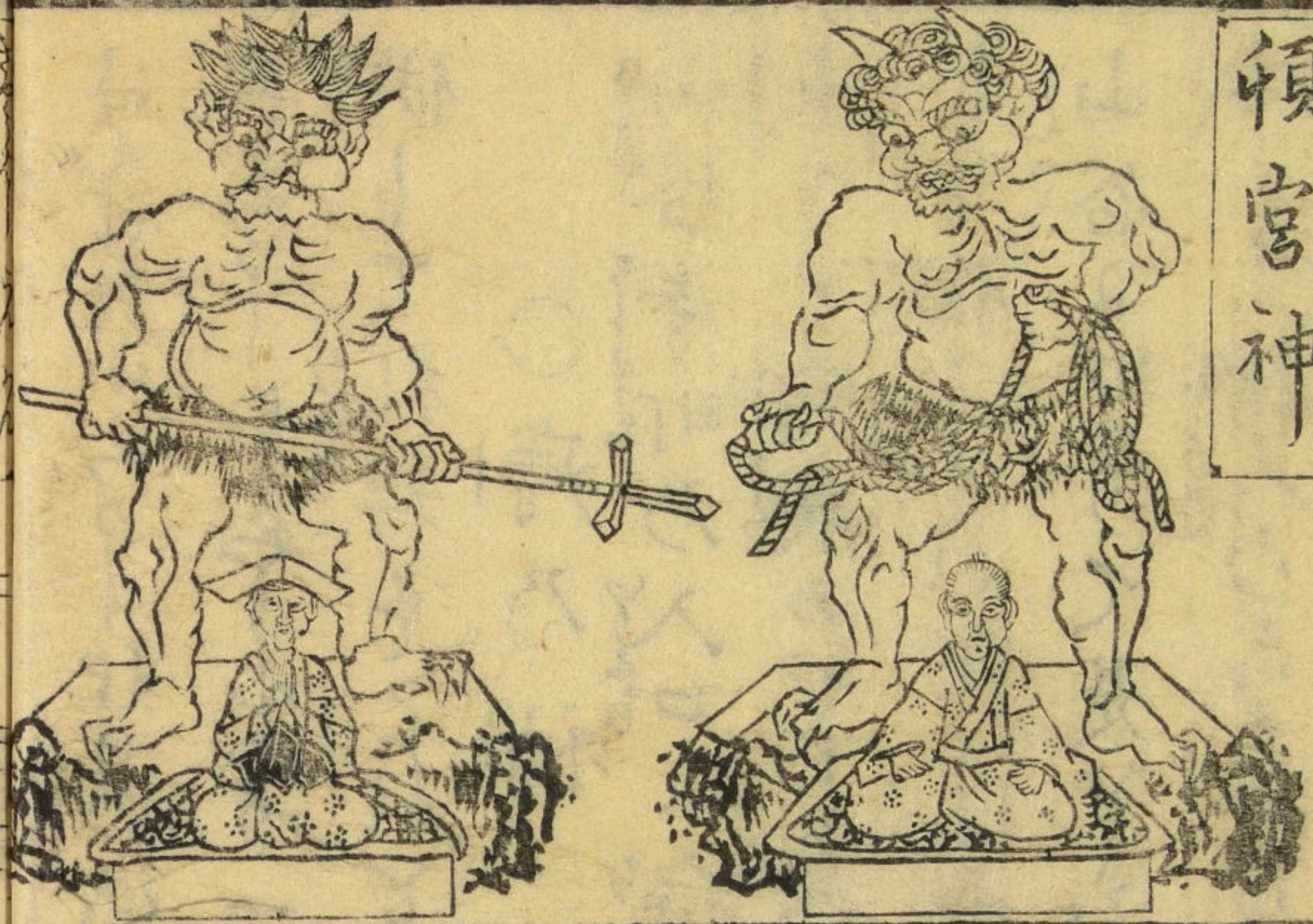
○鎧よろいの歩あゆの河水がみづ

小網町こゝろよりワヤを町まちへしる間あひだのしるし
此川中の流ながを引ひ込こめくもしてへる間まなり
大川筋おほがわへちくしる諸国しよこくの荷ひ行ゆく

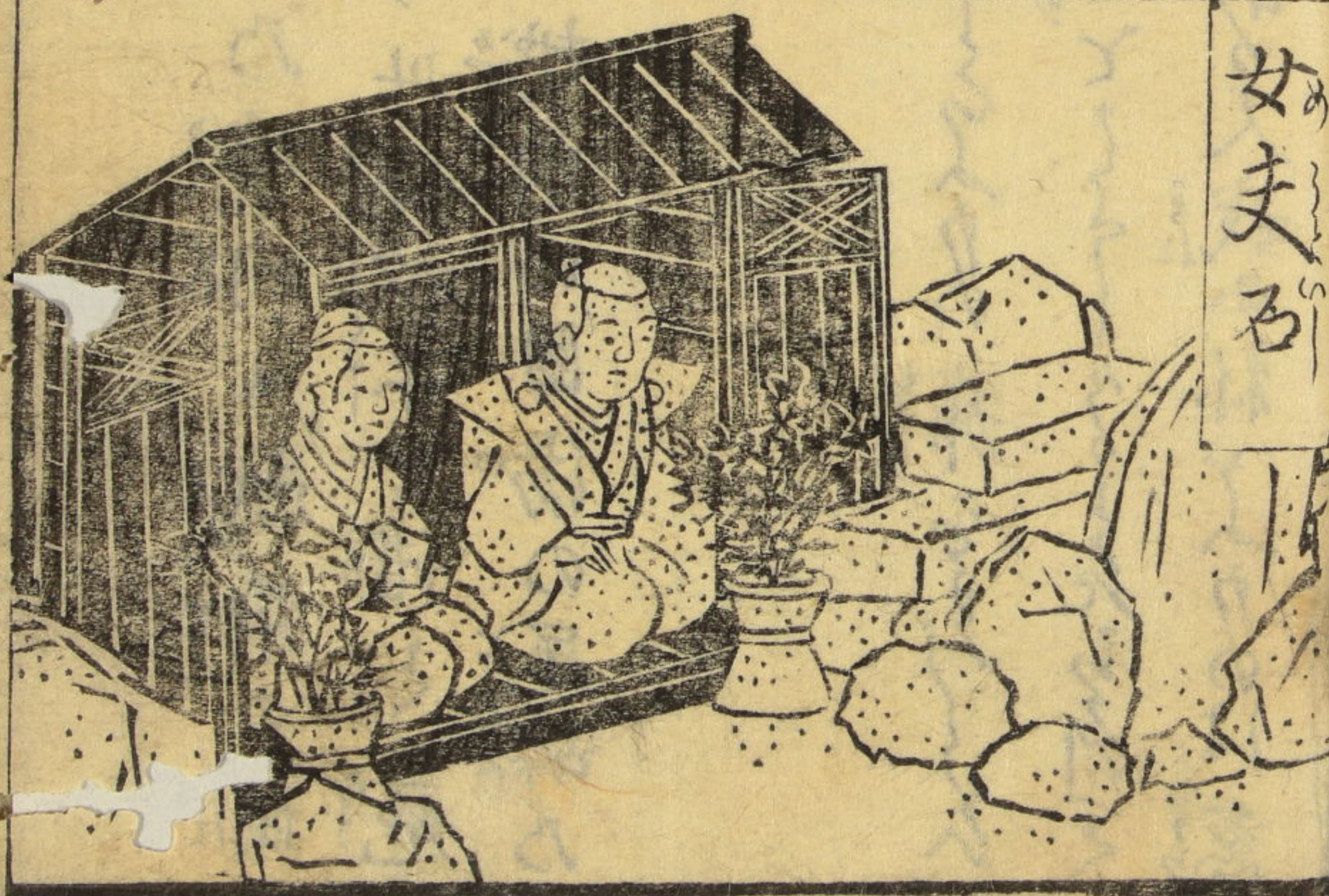
大川筋へちくしる諸国しよこくの荷ひ行ゆく



系船の標



傾宮神



女夫石



鯉谷いり

○孫抄子

駒込鱧縄手海藏寺乃境内は越前の國
湯尾峠の孫抄子あり此孫抄子と借く瘡
瘡子よ湯あきとゆり越前の國湯の尾峠乃
縁記云く此寺より也

○幸崎甚内

元禄乃昔幸崎甚内と云ふ人の瘡をきく
浅草鳥越橋を今と云ふと云ふと云ふ
死後よ瘡のいふ人我み孫ぶりのは忽

平愈なりと云ふをせんといひなり今鳥越
をいふより已が年と云ふ川一流平愈あり
と云ふ死竹の筒は水を入れて川へなが茶を供
するなり是れと云ふ世の人の名を記す

○桑の平内

桑の平内石の病氣乃種をとりはり
諸願しと云ふ成就なれと云ふと云ふ
をいふ願書は云ふと云ふ附録の下と云ふ

桑平内縁

年号と云ふ

平内

三

祠の内へ打て願成就のよきなり大を
鳥居を上小き秘のり繪馬とてさし
これのよき諸人のあるものなりとてさし

○日限地藏

白金三鈷坂下遊行寺に安置する所の地藏
菩薩を日限地藏とて諸人の祈るに
願がしとて具日数とて

世小日限地藏とて日本橋西

○大木戸の鉄

脚氣とてくふの芝牛町の大木戸の
願がなると則けなく古き雪踏乃り鉄を
いろろとて心は数をささり拾ひとてこれを
願がけぬやふそ昔
痛平愈なほの神の下にさすの縁乃り鉄を
大道にあまき落りあつたのなり

○榎坂の老のき

溜池のゆと坂のうふ大老のありこの木乃

根ねのりり白しろ山やま権けん現げんと念ねんト虫むし齒はののを
かけ治ぢししくくのりり柳やなぎの楊やなぎ枝えだと木きの根ねに供くを
たりと里さと人ひとの物ものががりり多たししべべるるに

○金きん龍りゆう山さんの仁に王おう尊そん

金きん童どう山さん浅せん草そう寺じの仁に王おう尊そん右みぎ乃のくくのの一いつ体たいを
拜らいししいいままどど疮ぢやう瘡そうせせぎぎ小せう児にと此こととくく之の連れん行ぎやう
此こ股またがが糸いと々々ららととれれをを疮ぢやう瘡そうくくししいいんんくくは
とくとく遠えん近きんより聞きつつてて久く此こ亦またままききるる平へい常じやうを
錠じやうををおおりりとと肉にくへ入いりり糸いと々々禁きんずずれれととも

毎月 八日 伊多日

右みぎのの日ひははへへ人ひとと入いるるかかりり猶なほははわわららななるる茶ちやととせ
小せうののりりくくるる糸いと々々回かいべべー

○三さん途と川がはの老らう婆ば

同どう寺じ奥おく山さんの左ひだりの方かた三さん途と川がはの老らう婆ばととのの木き
像ざうののりりくく古こ代だいより前まへ歯はニにツつけけ擲ちやくトとうう
ららてて此こ木き像ざうのの歯はののいいままむむとと糸いと々々んんががけけるるにに
すすままららしし平へい愈ゆせせばばととふふしし願ねんをを成じやう就じゆ乃の
とと揚やう枝えだとと供くををるるななりりととふふししととくく口くち中ちゆう乃の

やまのまの此老婆の木像にまがらんなり
平癒を乞ふと云ふ事

○南藏院の繩地藏

本所中の郷業平橋西詰南藏院
石の地藏尊あり心願あるものごとくにゆき
あふく糸鉢の繩をのりく地蔵尊のうらと
とらまらると死一七日があつて小願を成就
ましまると祈念ありまゝ願を成就の時
らまらる繩とらまらんと願をうけ

其後願成就の繩とらまら其うら、花を
供して拜とらまら

別して毎月廿四日ふぐんかけを人
まらとらまら

○茶の樹の稲荷

市谷八幡宮正面の坂と上り半よりひざり
茶の樹稲荷の祠ありこれ願をかけ糸眼の
りらひあるもの七日が間煎茶より心願を
かけるよ眼の煩ひと云ふ平癒を願成就乃

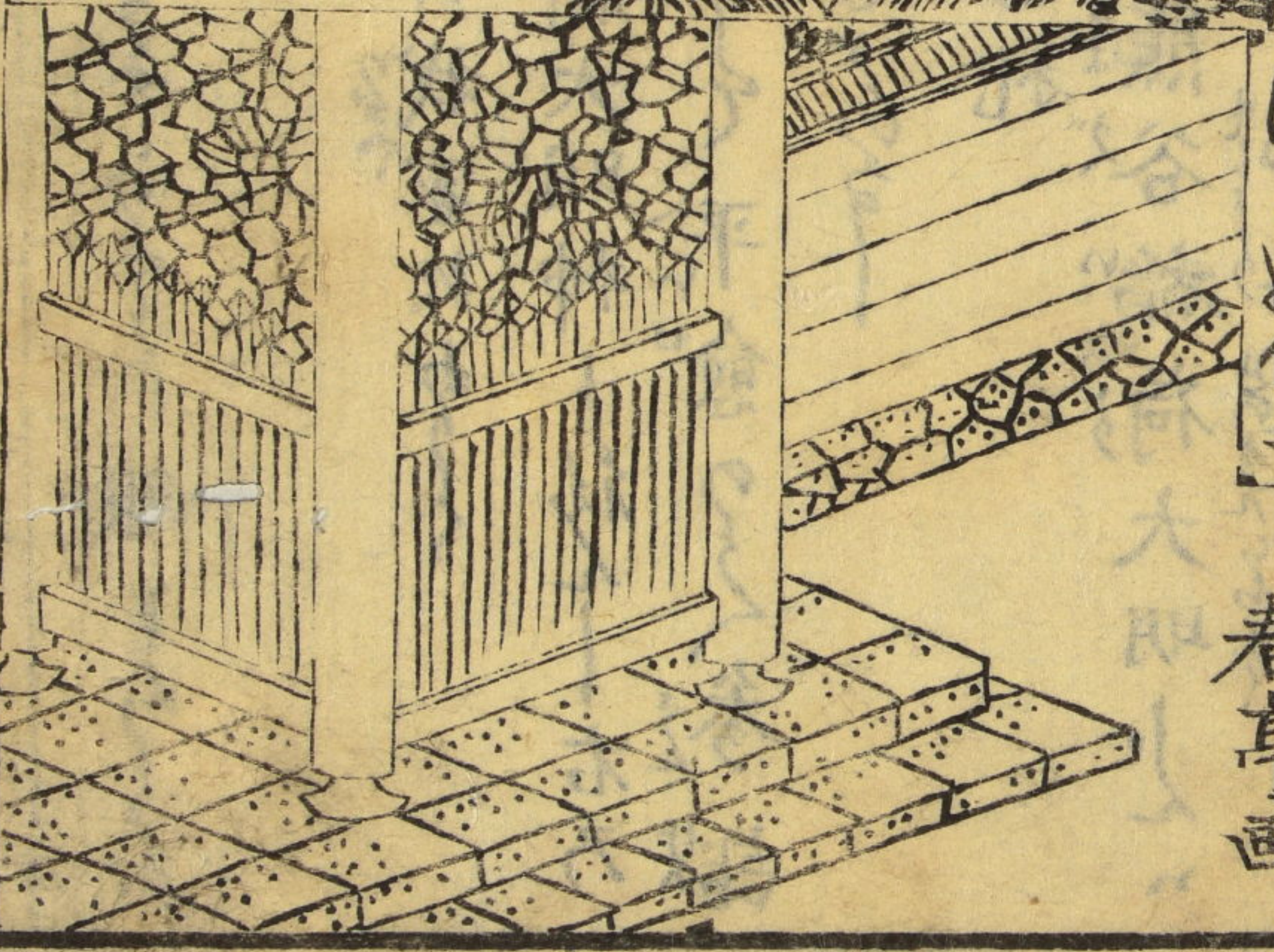
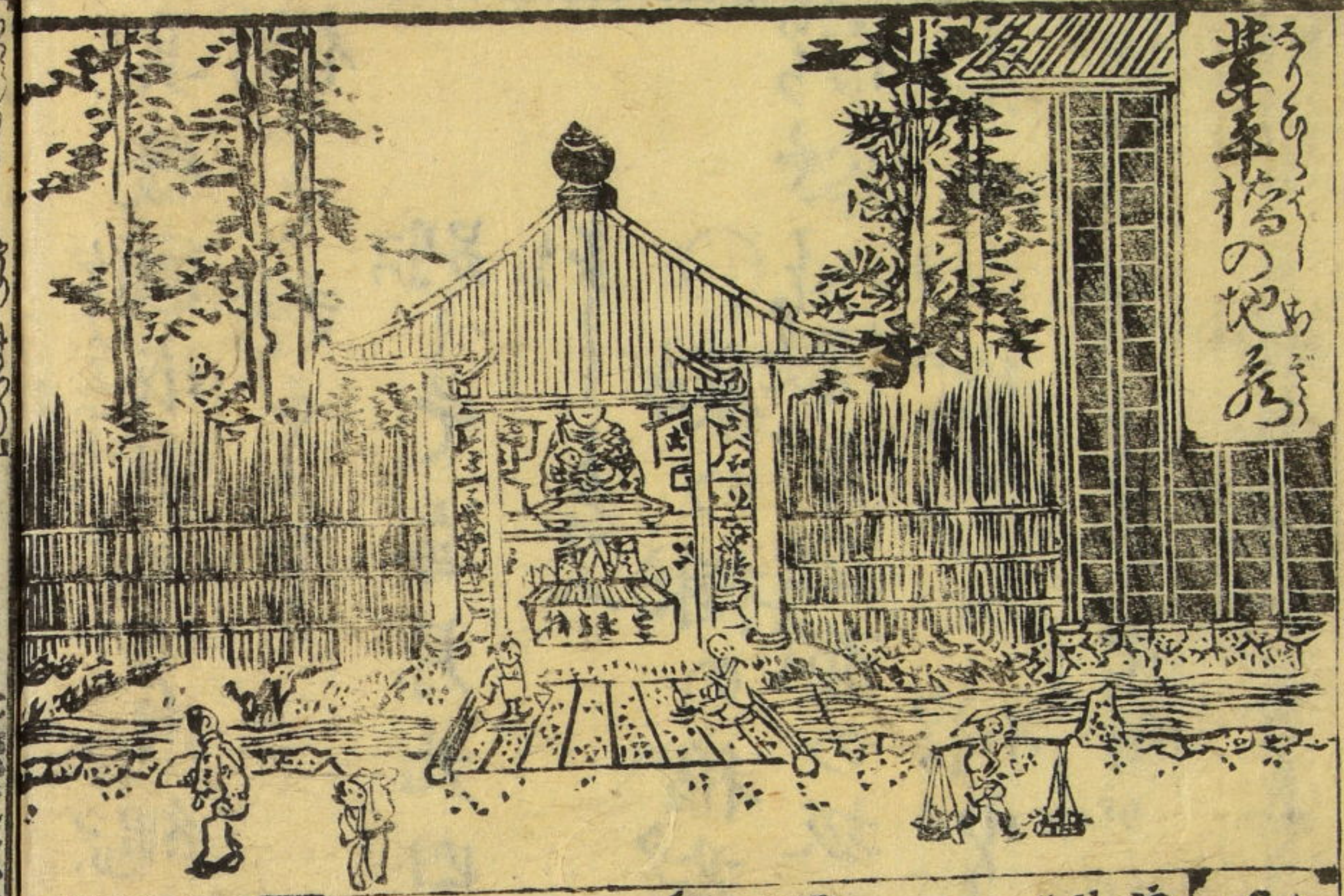
王子は池泉



王子は池泉

今入山

茶の木の地

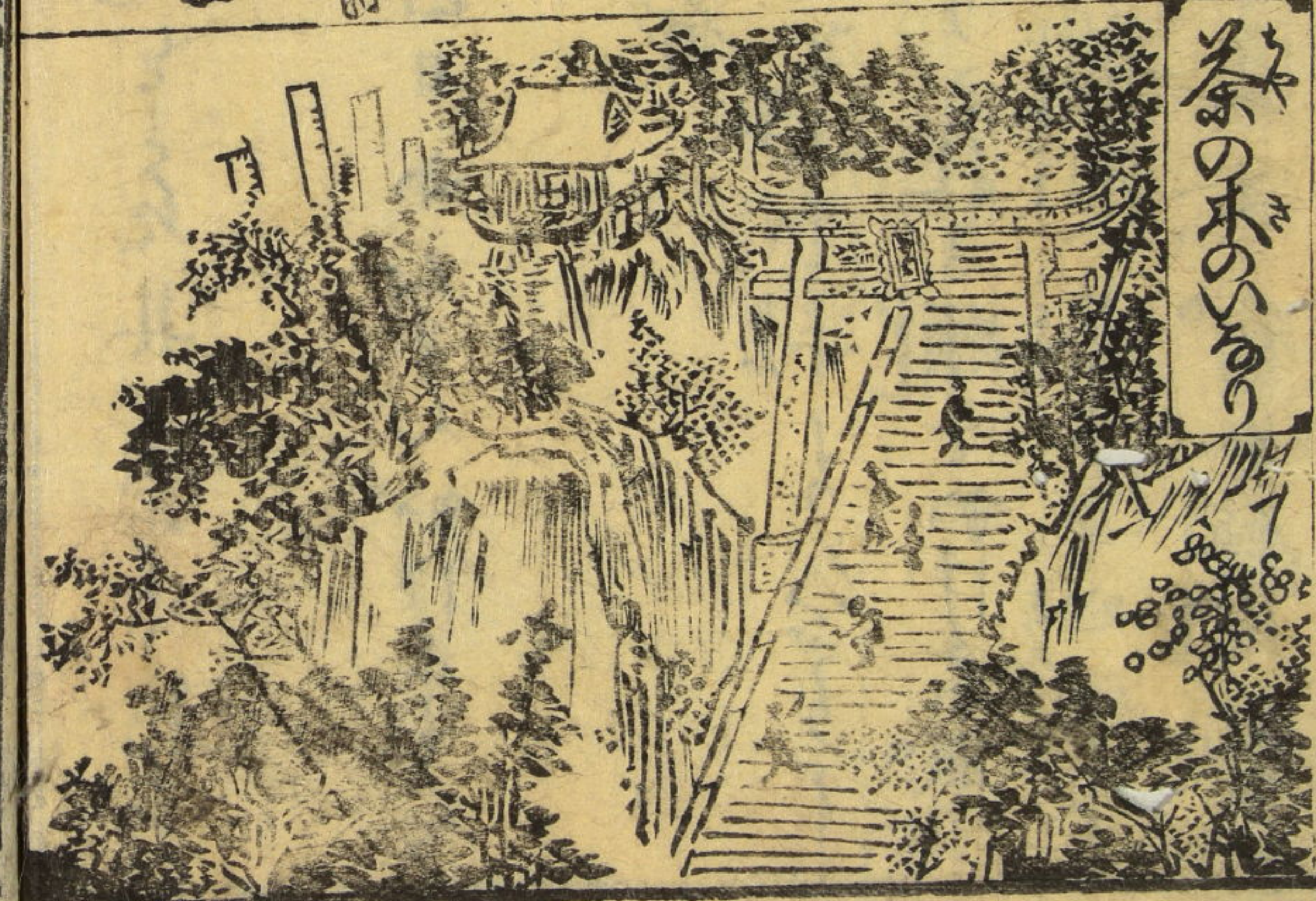


海峯仁王

右三
春亭画

茶の木の地

十一



く懺のりを一本奉納わらうすふみくしび眼めじくしふ
おころゆなり

但遠路とんろのとりぐく我家わがやにありく

正一位茶樹あまのまのい稻荷大明神いなぎと秘ひし一右乃

く茶あまぢらとかなそ平へい愈いのく参ま詣ぎ

まじ願成就ねんじゆじゆまじくし

○熊谷稻荷の札

浅草寺町本あさくさ法寺ほっほの熊谷稻荷大明くまがどん

世よ人のあるとそななる元来もとより灵験まがたま著しるし

諸人奇依あまなまゆおびしこ此稻荷いなぎ乃宮みや

より守まもり札まじ出るなり則すなはち毎年まいねん九月くわ廿五日にちごより

札の切手きりてと出でし極月ごくげつ朔日しやくにちよりお札まじと出でし

此まじり札と門かど戸こ又またへ家内うちよまのりお時とき

盗難とうなんとさくちゆさるひまし又懐やまふち首くびよ

信しん心しんよるとそ六道中ろくどうちゆう劔難けんなん盗賊とうさくのなんよ

あふしうてなり

御録日ごろくにち毎月まいげつ午う百ひゃく

○王子権現おうじごんげんの鎗やぶ

王子権現の祭禮ハ毎年七月十三日ナリ至
此日権現の社人ナリハ近隣の百姓家ナリ
神前ヨ小き鎗ト置テ祈念ナリハ惡ト又
災難トモメウケトシテ諸人此日此神前
ワケケク我願ト念ト神前ヨ御ウケル
鎗ト一本持テ是トウケテ翌年又
七月十三日ハ神前ヨワケケテ前年持テ
鎗トウケテ持行マシテ神前ヨある鎗ト
持テ我家にウケテウケテカクモハ諸願

成就トモメウケル盗難火難トモメウケル諸人
此鎗ト乞請ニウケテ多クモウケテの時地心
又ハ途中ウケテ小き鎗ト求行テ奉納トモ
年毎ニウケテ奉納トモウケテウケテ
心願成就トモメウケル家内息トナリトモ毎年
此日ハ人群集ナリ
鎗祭トモ神前ハ正午の刻ニテミ
ウケテウケテウケテウケテウケテ
ウケテウケテウケテウケテウケテ

○松屋橋の庚申 庚申の日よりして是迄

此八丁堀より本材本町六丁目へは松屋橋の
東詰は石像の庚申塚あり此石像は祈願を

こも何しふしに立願と云ふに灵驗ありあり
願成就のしに石像のまへは鹽と供に病人

此石像去らるる川の川より泥中より
上りありし此所は安置しきまらるる
遠近の老若参詣しゆるし

○築土の痣地藏

牛込築土明神の境内より地藏とあり

諸人いざりら面体へいぞ難義とありこの

地藏尊にせんけし七日の間いざら

あとなくいへくはまらかりゆいざら
男女とも面部よりそをそらにりて大なる

ゆりあり此地蔵尊より門より一七日精進あり

願成就のしに鹽を供し拜とあり靈驗

あり

○子の聖神

芝増上寺浄山内赤羽根へいづるまゝに
子の聖の祠ありとて腰より下の煩ひ疝氣
脚氣腰の痛なき此浄神へ祈願あり願
成就なりとていふなりとて上のまゝいふ
とも病症よりて腰より下へさうりするを
ひらけり願をうる小病氣平愈とて
さうりありたり

浄縁日

六日

願成就の後のびと紙献一浄供米と
あまのりあり

○節分の守護札

浅草寺の観音堂より毎年節分般若の
札と出此日追難のまゝいふわ川と年中乃
まゝいふとてのり寶前より節分の札と
わよ諸人これと乞請て門戸は張尼災を
まぬるまゝいふ難産のまゝ及んで

節分般若

この分の一字を切ぬまゝいふとてのま
まこれと乞請て門戸は張尼災を

○堀の内此張所符

堀の内妙法寺祖師堂にて此張所符の札を
請て病人の枕元より切死七日目より上へ上り
九一日目より上すやふ病氣平愈りては妙法の
功力よりいふに難病又ハ長病の人は三七日
を以て又札を張るるむ古に札とて一わいふ
札を乞請く張るる諸人よりあるもろかなせば
志多しふれどもむとくも祖師の利益のりんがふ
こふ裁に

願掛直法記終

北林堂藏板書目

西宮彌兵衛

江戶中番 廣小路町

福島順基先生著
大橋鑠英先生改正
将基絹節

全二冊

昔より約紙の本教多ありといふも尚世の風
不合故今流傳の約紙宣跡は眞意を委く
あつて教する出されん人ある處より

右同著
将基獨稽古

全二冊

嚮ふふ行進須節は迷ねるを扶ひ初めたり
衆れ百抄子磨の御本ぬまも初学師の
便に於てあつて益奥を究むべき出あり

名人大橋宗英先生著
将基歩式

全二冊

此書は先師行せし須節を漏るる約紙あり
宣跡のありえりて此書を以て初心法方に
便に熟習の時約紙の旨を人々と學ぶべきに

大橋宗英先生撰
大橋鑠英先生撰
将基早指南

歩式
二編

此早須節歩式に教あれは初学を意味の
解りざるを思ふ中より安くして其の手を以て
教ふるもなまじり上をまじりて子孫傳古は

大橋宗桂先生著

将棋妙手

全三冊

いふと定跡の指方初学棋古の為小指並に
當時考へたる指法を以て其第一の定跡
を以て其方々を以て其第一の定跡

将棋啓蒙正義 全三冊

大橋宗英先生著

将棋奇戦

全三冊

いふ先生は當時有名の上手を其精力を以て
奇巧を極めたる棋士初学棋古の為小指
を以て其方々の好む末まのありあけに
余に命ぜりし上本より流布するもいさなりぬ

大橋宗英先生選

将棋粹金

全三冊

先生を以て當時考へたる上手を其精力を以て
奇巧を極めたる棋士初学棋古の為小指
を以て其方々の好む末まのありあけに
余に命ぜりし上本より流布するもいさなりぬ

伊藤宗看先生選

将棋絶妙

全三冊

いふ當時考へたる上手を其精力を以て
奇巧を極めたる棋士初学棋古の為小指
を以て其方々の好む末まのありあけに
余に命ぜりし上本より流布するもいさなりぬ

大橋宗桂先生選

将棋明玉

全三冊

當時考へたる上手を其精力を以て
奇巧を極めたる棋士初学棋古の為小指
を以て其方々の好む末まのありあけに
余に命ぜりし上本より流布するもいさなりぬ

大橋英俊先生輯

将棋軌範

全三冊

近來の名人を指する百番を撰り大橋英俊の
手合を以て其時の地位を以て其方々の好む
末まのありあけに余に命ぜりし上本より流布
するもいさなりぬ

伊藤看壽先生著

将棋圖巧

全三冊

世に囲碁を指する者多し其多しと評せしは
其多しと評せしは其多しと評せしは其多しと
評せしは其多しと評せしは其多しと評せしは
其多しと評せしは其多しと評せしは其多しと
評せしは其多しと評せしは其多しと評せしは

三代目大橋宗興先生著

将棋養真圖式

全三冊

いふ先生は當時有名の上手を其精力を以て
奇巧を極めたる棋士初学棋古の為小指
を以て其方々の好む末まのありあけに
余に命ぜりし上本より流布するもいさなりぬ

桑原君仲先生著

将棋玉圖

全三冊

先生は當時有名の上手を其精力を以て
奇巧を極めたる棋士初学棋古の為小指
を以て其方々の好む末まのありあけに
余に命ぜりし上本より流布するもいさなりぬ

将棊玉手箱 全二冊 算数の以に名を冠上手の指方を集む

将棊童觀鈔 全冊 二枚落より平手と立約但妙くあそぶ所を

将棊袖珍手段 極く初心の人と初級者の宜く成るべしと云ふ書也

西碁長谷川先生總理
流峯十葉先生編集
八算及相傍別差を盈胸求積用平開立方
勾股弦容術天元點竄交商變商整數
逐索成數互減通約互約通約高約自約
倍約扶約零約制一納一窮管適盡變數
拓差梁術綴術圓理角術及雜題小云々

算法新書 全五卷

合卷大冊 一卷

術毎小紀原を以て極形術を附録し古今解
法を詳しと解法を詳しと算術中の秘を詳しと云

西碁長谷川先生創製
鳳堂秋田先生編集
算法極形指南 全三卷

極形術法より起り二個の極形變化を數件の
象を成し種々の極形合還系より不同の組合件
と爲る理を以て難問二百余條の起原を以て
前人未嘗の巧理解義捷徑の良法なり

西碁長谷川先生閱
梅坪平内先生編
算法變形指南 全一冊

局部の變形を以て難問を以て極形を探索し極形を
施す妙法古今未嘗の編あり初学の士は
書によらず人のあるを以て

碁溪長谷川先生閱
藤樹山本先生編
算法容題矩合表 全一冊

容題の術法を以て小者より大者まで適等
組合二百餘條を以て解中運算の勞を省く
一助と爲初学之士は以て凡そ海を以て初
めくすもやう極形を以て小者まで

碁溪長谷川先生閱
岳湖内田先生編
算法求積通考 全五冊

方圖截積及積及雜形の積を以て求むる紀原
を詳録し立表件を以て解中運算の
勞を省く用法を詳しと極形を以て安
しむけ云々と求積術の原を以て

西碯先生聞
鳩山先生編

算法約術類聚 全二冊

遍約五内逐約五約自約増約換約零約
翁管の影を設るは初より解我精術
小のりまて詳小のせり約術の全書と云

藤樹山本先生 同編

成淵大木先生

算法通解 全十卷

西碯老師の算生山口千孝 平内内田小樽久間木谷
の法を生及社中の法子初考の定術を設け
老師の訂正を法と歳と蓋めり初裏中小
滿の竟小蝕亡破失を患ひ秋田生を題術及
解我と老師小をて是を世小公の法未登の
変化と可解我捷徑自然老師の學風と具と

朽木軒村田先生編

算法側圓詳解 全冊

今側圓の内外に方圓換斜木の雜形と云へ
客の術と輯録とを例圓の全圖の還系
一の術を素む初客の示の雜形も還系の
矩小應して屈伸と云るは卷中より屈伸
變化の初と詳小の解義と云る

藤樹小樽先生 同編
鳳堂秋田先生

點竄手引 全五卷

自初編至五編各三卷

藤樹小樽先生 同編
鳳堂秋田先生

大全塵劫記 全一冊

世の上本は教者ありといふも解義省略
ゆゑの學通曉一難ゆゑ平假字を用て
術語を示し算術の傍小注を加初學は
と云るは合點の安記替古本あり
八算及相協割差を盈朧坪割削平開三方
勾股法客術截術及天元點竄術木の解
義と云ふ示の深切あり初學初學はと
いふも云はる安記替古本あり

梅坪平内先生著

算法直術正解 全一冊

法算小載る影をもを採めて解義を詳出
其解中適當の組合を用ひて直術精術と云る
と云るあり客小五乗を帯ぶるの良法と
初學の士は書ふよりずんばあるを云ふ

朽木軒村田先生編

算法地方指南 全一冊

田畑及列石石盡物成を凶換月の仕換り地方
算法の問答を載せ解義を詳出古今粗模算
門を論 必那の度換と探り内外の言低を計る
法と云はるは出にあり地を町見分見の術小云る

鳳岳先生編

拾機算法 全五卷

此書は竈竈術を述べ上本せしものなり。此の約
術管 益教振差架樹園理弧背木の真
術との七書中皆漢文にて術文の二一き
を要とす

鄰々白石先生編
旭岡池田先生訂

社盟算譜 全二卷

楮園周背の管術を初め是の二階をりする
園象球の求積と楮園木の妙也奇術を
掲ひ社中より願堂小掲をて集む附録
の球面三斜積欠の欠積本を載せ

湛々岩井先生閱
杉籬山日先生著

算法圓理冰釋 全二冊

球面三斜積去積交周木の解義及世の
法きぬきとのと稱する此の解義を詳し
初学の士といへどもはを二見せば師ありて
増約術蘊奥にむんと近し

鄰々白石先生閱
陶々木村先生著

溫知算叢 全一冊

鄰々先生の傍にあり陶々先生自筆の
因珠の求積と楮園木の奇題妙術を
集録する所あり

鄰々白石先生閱
湛々岩井先生著

算法雜俎 全三冊

鄰々先生の社中自ら一奇の術を案し願堂
小納むるを集むるは法算を改正し其を
階材として學とては述べ教をほかにある

觀齋内田先生編
龍涯堀先生訂

古今算鑑 全三冊

和漢算家の由来と挙げ本編八門生子
の願堂小掲られ楮園周背の真術及
因珠異象の求積と定哲雜卷と号せし
同小一奇の算術を施せしと形編と

觀齋内田先生監定
權山志野先生編輯

豁機算法 全三冊

古より算術の不出といへども奇妙の奥なる
ありては出れ右小出るは後進の士はを讀み
懸竈あり自ら算法の妙をほかにある

池田先生監定
橋本先生著述

算法點竄初学抄 全一冊

此書はあまの算出れとて之をくき術文を
記述するに及ばず算見一とに記す時之師
ありては竈及比例木の理を自筆のありよ
のそみて自在小なりはるは意をあらは

城山村内先生閱
神山小林先生著
算法瑚璉

全二冊

け出始中の初学解し易き形術を出し未だ
関夫子の奥秘を以ては是を極致極術極術の
活動図記の妙用委くけ小冊中に含ぶる

南谷市川先生編

合類算法

全一冊

図表の弧を穿去する面の面積を求め得て法弄
出小徳なる難題の求核と方陣及容積求の妙術
を集成し初学れすといふことけ書を由る必
ゆることとすすや小教に成極るに在るを

豫山創持先生著
逸齋野村先生訂
探蹟算法

全三冊

世小形術の不出乏といふも演辰田理の奇類
妙術に在りけ出小なるものか依てけ出小
かつきまされけ田理の微妙を悉く明かす

著隻御粥先生編

算法淺問抄

全二冊

け書ハ淺問とせし小輯編く世小懸竈乃
法と初めてそひぬるをへ傳ふる時其理と
會はざるの一助ともあるへ且追加方陣の
道術の古今未著なる奇術なり

水藩川口先生著

征韓偉略

全五冊

豊太岡の朝鮮征伐は我日本の武威を外ほ小耀せし
蓋奉山の國史を修むる者考究せざるべからず
漢土朝鮮の古日本誌家の秘冊とて一毫の私を加へ
年月地理を推し事實の次第功の実否を考正
する朝鮮征伐の實録なり

植田孟縉編

官日光山志

全五冊

當 許山の勝地絶景ありと詞も及び清浄の仙嶽
昔者言及あるとい世にも小知る事なり
金殿玉堂とのと存堂を委を知る者か今け出
凡俗の行かざる吟詠の山誌にふまざるも徳と形
楊閣も居ながら小足るべく山水も味しと知る
又これに密画を加て深山出谷の佳景手に加へ
かる廣大なる靈山あれ異本靈草靈禽禽の
如きも多うるを作者が真圖を撰字し
洋あり然るも余解し安し御も私を加はる
許言辨といふも許山の事実と相物とを
の献物にむまう悉く記を恭し官許と歴てこ
上本尺と年代交錯するに任せけいへるべし

千字文 大字本 全一冊

善庵先生訓點 四字經 改正大字 全一冊

菱川先生法帖

阿房宮賦 行書 全一帖

岳陽樓記 真書 二帖

五柳先生傳 草書 全一帖

前赤壁賦 八分 全一帖

醉翁亭記 草書 全一帖

後赤壁賦 行書 全一帖

和文章 諸體 全一帖

歸去來詞 行書 全一帖

其外追々近刻

萬壽亭正二人著

願懸重寶記全冊

凡非仙神亦多其れはまごころありあり
故に京師小名言利生阿はあり奇物ありを
集め綴日長小形のひかりをたのほはゆい何れも
不書水まき委しく巻こくる重宝の虫なり

寐小便の大奇薬

壹包代錢三百銅

此所業い海と奉久後海志も大小男男女女も此一包
を治るる奇と云いん妙と云いん是れ法人の秘に用いたる命
治せざるものあり候は法人のすむ海を世に弘め海内男女
寐小便を治む者どもとて世に傳ふ薬と云ひおしつるは
奇妙に良方候後的心成し書用ひて其痛苦をなぐるものなり

本家調合所

西宮弥兵衛

大阪心 向筋北太郎所

河内屋喜兵衛

書林

江戸日本橋通一丁目
同 中橋廣小路町

山城屋左兵衛
西宮彌兵衛

